

科目名	復興支援演習1			ナンバリング	REC141	授業形態	演習
対象学年	2 年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	1 単位
代表教員	鎌田真理子	担当教員	菊池真弓				

授業の概要	本演習では、復興支援にかかわるボランティア、環境に関する取組等を演習・実習形式で学習することにより、復興支援という共通の目的に向かって、集団で動く/集団を動かすための態度や技能の習得を目指す。特に、被災地におけるフィールドワークを経験していく中で、実戦的・経験的知を積み上げていくことに重点を置く。						
到達目標	1.復興支援の意義と目的を明確にし、実践へのビジョンを身につける。 2.地域社会に関する様々なデータの収集方法を身につけ、地域診断・地域分析の方法を駆使できるようにする。 3.フィールドワークを経験し、見聞かして得られた知見をデータ化して活用できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	1.復興支援論、ボランティア論の単位取得済みであることが望ましい。 2.復興支援演習2、復興支援プロジェクトも続けて受講することが望ましい。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
		4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1.復興支援の意義と目的を明確にしている。 2.地域社会に関するデータ収集方法を身につけ、地域診断・地域分析への展開を基本的に理解している。 3.フィールドワークを経験し、得られた知見を整理しまとめることができる。	1.復興支援の意義と目的を明確にしたうえで、実践活動への展望が開けている。 2.地域社会に関する様々なデータ方法を身につけ、適切な分析を加え、地域診断・地域分析の方法と適確に駆使することができる。 3.フィールドワークの経験を通して、得られた知見を適確に整理しまとめ、データ化できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○						50%
宿題・授業外レポート	○	○	○		○		30%
授業態度・授業への参加			○	○			20%

課題、評価のフィードバック	1.課題の振り返りを行い、担当教員がコメントする。 2.フィールドワークに同行し、課題のポイントを指摘し、自身の知見の多面的理解につなげる。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	復興支援演習1とは(ガイダンス)	復興支援演習1の目的と目標を明確にし、学生自身のニーズと照らし合わせ、この演習で何ができるのか説明できる。	
	第2回	キー・ワード演習①	「復興支援論」「ボランティア論」におけるキー・ワードを振り返り(グループ学習も含めて)、それらに沿ったグループ学習、ロールプレイ等の体験学習を組み立て実践できる。	
	第3回	キー・ワード演習②	前回に引き続き、キー・ワードの振り返り(ビジュアル学習、ロールプレイ等の活用)、整理・確認を通して、これら体験学習の意味と意義を説明できる。、	
	第4回	地域概況の整理①	地域診断・地域分析の手法を学び、その要点を把握する。特に、福島県の置かれている状況、なかでも浜通り地区、いわき市の状況を適確に把握し、説明できる。	
	第5回	地域概況の整理②	いわき市周辺地域に関する情報、先行研究等を調べる。図書館(大学、公立)、アーカイブ室等を活用し、地域概況をより詳しく調査する手段の幅を拡大する。	
	第6回	問題意識の整理、グループ形成、仮説の展望	グループを形成し、グループ別のテーマおよび問題意識について討議・整理する。グループ形成の意義を把握した後、グループ学習のメリットとデメリットを説明できる。	
	第7回	仮説の設定	仮説設定の仕方を理解し、グループ別の問題意識に応じた仮説を設定する。この仮説を具体的に検証していくための段取りと見立てを整える。	
	第8回	フィールドワークの心構え①	ゲストスピーカーの講話を通して、フィールドワークの心構え、調査倫理等の要点を体得する。様々な倫理綱領を調べ、自分たちにとって必要な心構えや倫理に関しては、具体例を挙げて説明できる。	
	第9回	フィールドワークの心構え②	質問事項の体系化を試みる中で、ゲストスピーカーの講話を通して、フィールドワークの心構えをもう一度振り返る。具体的説明事項をまとめ、倫理的要点を再確認する。	
	第10回	現地フィールドワーク①(訪問・見学)	現地フィールドワーク①を体験し、報告レポートを作成することができる。見学する際のエチケットと自分なりの視点を明確化できる。	
	第11回	現地フィールドワーク②(訪問・見学)	現地フィールドワーク②を体験し、報告レポートを作成できる。見学する際の自分なりの視点をもう一度振り返り、さらに綿密化する。	
	第12回	現地フィールドワーク③(ボランティア等)	現地フィールドワーク③を体験し、報告レポートを作成できる。参与観察の方法をボランティア等によって身につける。	
	第13回	現地フィールドワーク④(ボランティア等)	現地フィールドワーク④を体験し、グループ別のレジュメを作成し、報告レポートを作成することができる。ボランティア等による参与観察のメリット、デメリット、リスク等を指摘できる。	
	第14回	現地フィールドワーク①②③④の報告書作成	グループ別のレジュメを作成し、現地フィールドワークの体系的説明ができる。	
	第15回	全体のまとめ	集団で動く/を動かすための態度や技能の習得について、地域診断・地域分析の実施、体験学習、参与観察、等から学んだものを説明できる。	
	試験	定期試験は実施しない。		
授業の進め方		基本的に授業計画に沿って、各回のテーマに基づいた演習を行う。必要に応じて、ゲストスピーカーを招いたり、大学の内外の施設を活用しながら進めていく。適宜授業内レポートや宿題を課す。現地フィールドワークに向けた授業設計が骨子となっている。		
授業外学習の指示		配布資料等を参考に、演習内容を復習する。不明な点の確認、問題の深化を図るために、各種文献資料やインターネット等を活用したり、担当教員に積極的に質問すること。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	教科書は使用しない。随時、プリント等を配布する。
参考書	授業の内容に応じて適宜指示する。
参考URLなど	復興庁ホームページ http://www.reconstruction.go.jp 福島県庁ホームページ http://pref.fukushima.lg.jp いわき市役所ホームページ http://www.city.iwaki.fukushima.jp
その他	

ルーブリック「復興支援演習１」

評価規準 項目／観点		レベル高 ← 評価基準 → レベル低		
		レベル3（模範的、理想的）	レベル2（標準、合格）	レベル1（要改善、不合格）
1	復興支援に関する基礎的・一般的知識	復興支援に関する一般的知識が体系的に得られ、具体的に展開できるための準備が整っている。	復興支援に関する一般的知識が概括的に得られている。	復興支援に関する一般的知識があいまいのまままで具体的なイメージにつながらない。
2	復興支援の意義と目的	復興支援の意義と目的が明確になっており、具体的地域への適用が可能な状態になっている。	復興支援の意義と目的が明確になっている。	復興支援の意義と目的が明確になっていない。
3	地域社会に関するデータ収集	地域社会に関するデータ収集が多面的に行われている。	地域社会に関するデータ収集が一通り実施されている。	地域社会に関するデータ収集に偏りが生じている。
4	地域診断・地域分析の手法	地域診断・地域分析の基礎的・一般的手法が得られており、具体的な地域社会への適用も可能である。	地域診断・地域分析の基礎的・一般的手法が理解できている。	地域診断・地域分析の手法そのものの意義と目的が理解されていない。
5	フィールドワークの心構え	基本的なフィールドワークの心構えが整っており、具体的場面への応用が可能である。	基本的なフィールドワークの心構えが整っている。	基本的なフィールドワークの心構えが整っておらず、あいまいなままにとどまっている点が多い。
6	フィールドワークで得られた知見のデータ化	フィールドワークで得られた知見を適確かつ多面的に分析しデータ化しており、プレゼンテーションの準備が整っている。	フィールドワークで得られた知見をデータ化し、多面的に分析する準備ができている。	フィールドワークで得られた知見が整理されていない。
7				